

第20回「蕨の会」皇居・日銀本店見学報告

塚田道明（9組）

東京都の桜の開花宣言が翌日にも期待される曇り空の下、3月17日（火）9時半、同期9名が皇居桔梗門に集合した。メンバーは浅倉英樹（4組）、上原昇（2組）、岡田修（11組）、沓掛文夫（3組）、神宮進（10組）、成澤文和（4組）、原田義則（3組）、丸山暢久（4組）、塚田、及び、途中参加の関賢治（2組）の10名。今回の幹事は、丸山君にお願いした。

<午前>

9時30分に桔梗門が開門し、休所（窓明館）にて、注意事項の説明があった。

この説明会は、7~8ヶ国語で行われ、皇居の国際的人気に驚かされた。その後、各国ごとのグループに分かれ、総勢、500名による大行列にて参観に向かった。

10:05 富士見櫓（当時は将軍がここから富士山を眺めたとか）、宮内庁庁舎前を通り、ほぼ満開の「春めき桜」を楽しみながら青葉に包まれた「山下通り」を抜けると10分ほどで今回の参観の目玉である宮殿に到着した。ツアー客のボルテージが一挙に上がる。

ここでは宮殿には止まらずにそのまま進み、正門鉄橋（通称、二重橋）にて写真撮影。

そして再度正月など一般参賀で両陛下や皇族の方々が立たれる宮殿の長和殿（長さ160m、震度6程度ではびくともしない耐震設計の建物）の直前10mまで近づけて大感激！

その後、三分咲きの「しだれ桜」を右手に眺めながら、桔梗門に戻り、皇居を後にした。

11:33 東京駅北口にある「駅構内ルート」を通り、途中の「釜たけうどん」に入り、それぞれでランチを楽しんだ。

<午後>

12:20 日銀本店入館までには時間があつたので、近くの三越本店に足を運び、新館地下1階にあるコーヒーショップで時間をつぶした。

13:30 日銀本店入口にて、厳重なボディチェックを受け、荷物を無料ロッカーに入れてから、歴代日銀総裁の肖像画と写真が並ぶ廊下を歩いた。日銀は、西南戦争での戦費を調達する為に大量に発行されすぎた貨幣価値を守るために1882年に設立された。日銀の主な役割は、1.札の発行、2.物価の安定、3.金融システムの安定である。日本最古来の貨幣は、以前までは「和同開珎」と言われていたが、1998年の「富本銭」の出土により歴史が塗り替えられたようである。全国の貨幣を統一したのは徳川家康で、江戸時代には、金貨や銀貨が鑄造され、偽物の対策の技術（極印を打ったり、薬を塗ったり、透かしや小さな文字を入れるなど）が進んだ。金属が足りなくなると、紙（藩札）が使われるようになり、最初のころは、思うように流通しなかったようだが、その後、三井や鴻池財閥が使用



写真 3 : 皇居宮殿東庭にて



写真 4 : 日銀本店にて



写真 5 : 懇親会にて